



県文「十六羅漢図」長谷川左近 大乘寺蔵
—特集展示「大乘寺の文化財」より—



畝村直久「新しき拓人」
—特集展示「群像[彫刻]」より—

- 溶姫の婚礼調度
- 大乘寺の文化財
- 群像 [彫刻]
- 風景画の魅力
- 館蔵優品選 —工芸—

- 今月の企画展示室
- ワークショップのご案内
- 企画展Topics
- 展覧会回顧
- ミュージアムレポート
- 行事予定

大乘寺の文化財

11月27日(木)～12月23日(火・祝)
会期中無休

加賀の古刹として知られ、曹洞宗第二の本山とも言われる大乘寺の文化財を紹介します。金沢市長坂の大乘寺は、加賀の守護富樫家の創建で、鎌倉時代末、永平寺より招かれた徹通義介が野市(現在の野々市)の真言寺院を禅寺として開山しました。このとき徹通は道元の伝来した数々の文化財を大乘寺に持ち込みました。今回展示する『佛果碧巖破関撃節』(一夜碧巖集)や『支那禅刹図式』(寺伝五山十刹図)はその代表的なものです。

その後、永光寺・総持寺の開山でもある瑩山紹瑾や明峯素哲の時期に基礎が築かれ、室町時代には足利幕府の祈願寺として寺領・屋敷が安堵

されました。しかし一向一揆によって保護者である富樫氏を失い、その一揆を平定した柴田勝家の兵火によって、堂宇も焼失してしまいました。その後、加賀藩の時代になって復興され、金沢木の新保(現在の金沢市本町)に移転・再興されました。さらに本多政重により、本多家下屋敷の隣接地である石浦大乘寺坂(現在の本多町)に移転します。さらに二十八世明州珠心の時、藩より与えられた現在の地に移転し、今日に続いています。

現在、当館に一括寄託される大乘寺の文化財は、古文書・絵画・工芸の類などですが、今回はそれらのうちより、重要文化財をはじめ二十五点の文化財を展示します。



五十嵐派「時絵竹図硯箱」

溶姫の婚礼調度

11月27日(木)～12月23日(火・祝)
会期中無休

婚礼調度とは、婚礼にあたって女性の家から嫁ぎ先へ持参された「嫁入り道具」のことです。それら化粧道具・文房具・遊戯具などは、時絵で家紋が散らされた豪華な装飾で、意匠も統一されています。前田家では、徳川家からの輿入れが多く、将軍家からの輿入れに際しては、新しい御殿(御守殿)を新築して、姫君を迎えています。本特集で紹介するのは、十三代藩主斉泰に嫁いだ十一代将軍家斉の二十一女・倍子(溶姫)の婚礼調度ですが、溶姫を迎える際に建てられた御守殿門は、現在、東京大学にある「赤門」としてよく知られています。

◆厨子棚

拾式手箱・香盆・硯箱など、化粧道具・香道具・文房具

を置きます。厨子棚は、平安時代の公家の調度に始まり、室町時代に黒棚とともにこの形式となったと考えられています。家具というものがほとんど発達しなかったわが国においては、数少ない伝統的調度といえます。

◆拾式手箱

手箱は、平安時代に貴族の手回り道具を入れた箱に始まり、鎌倉時代以降は、化粧道具のみを納めるようになります。大円形の鏡箱(二合)など十二合の箱が納められます。

◆歯黒箱・渡金箱

お歯黒の道具を入れる箱です。歯黒の原料である附子粉、銀製の歯黒次などが納められます。渡金には吉祥模様が入っています。

◆短冊箱

短冊を納めるための長方形の箱です。いつでも短冊に詩文が書けるように、懸子には硯・水滴・筆が納められています。

「歯黒箱」

第3・6展示室

風景画の魅力

11月27日(木)～12月23日(火・祝) 会期中無休

広大な景色や幽玄な景色を目にしたとき、人は「あつ」と歓声をあげたり、吐息をもらしたりします。心に残る風景、あるいは残したいと思う風景は、どなたもお持ちのことでしょう。一人一人の心に刻まれた風景には人それぞれの思い出が、風のそよぎや匂い、音を伴って甦ってきます。いつかどこかで見た景色だと感じたとき、その時代にフィードバックした自分を感じるのです。

風景画の魅力はこうした情緒的要素に加え、体験する喜びをあげることができます。居ながらにして旅し、発見する喜び。見知らぬ土地であれば、目にする全てがもの珍しく、ワクワクとあちこちを眺めて想像をふくらませ、旅の疑似体験を味わえます。

さらに、画家の目、つまり、視点と表現方法が、写生とは異なる風景画独特の魅力を作り上げています。

富士を赤くダイナミックに描いた北斎、雪の東海道蒲原を情緒たっぷりに描いた広重、いずれも新鮮でハツとするほど驚きのある表現です。日本画における茫漠とした空間、油絵の実空間かと思まごう材質感を伴った風景、画家たちは自分にかき描けない風景画を作り上げて来ました。人はそれらを見ることにより、新たな自然の見方を学んできたのです。

今回の特集では、日本画、洋画、水彩画、素描、版画の異なる技法、異なる絵画世界において、どのように風景が描かれたかをご覧いただければと思います。日本画と洋画のものの見方、空間表現の違いや、大作と現場で一気に描かれたスケッチとの違い、そしていくつかの手順を経て制作される版画との違いなど、興味はなかなか尽きないのではないのでしょうか。ぜひご覧いただき、絵を旅してください。



中町力「THE BRONX」



村田省蔵「斑雪」

第4展示室

群像 [彫刻]

11月27日(木)～12月23日(火・祝)
会期中無休

群像彫刻は複数の人物・動物などの集合・組み合わせからなる作品で、性格や姿などが異なるモチーフ同士が全体としてひとつのフォルムを形成するとともに、テーマと意志を統合し作品化したものです。本館の群像彫刻作品は、人物二体のパターンのものが中心ですが、人と動物の組み合わせである「満州風景」(吉田三郎作)などのような作品がみえるほか、三女神のように「知」「情」「意」を、三人の裸女で象徴させた「和」(畝村直久作)のような三人群像作品。四高記念像(吉田三郎作)のように、明治・大正・昭和の各時代をそれぞれの時代の学生さん三人の姿で表した作品。また「山羊を飼う老人」(吉田三郎作)のよう

に一人に山羊二頭を組み合わせた作品。更に「子供群像」(吉田三郎作)のように、横に並んだ大勢の子供の身長的高低を棒グラフの高さに相当させ、横浜市の水道の今日までの発展の様子を示すという珍しい作品もみえるものとなっています。

展示構成は、人物群像の「群像の人々」ひとびとにんにん」。人と動物の混合像の「人と動物」物語と情景の中で」。抽象作品をも含めフォルムの対比と調和をテーマにする「個と個の相克と協調」。そして「動物群像」睦まじい情景」です。フォルムの融合と個性の調和を示す「群像」の多彩な展開をお楽しみ下さい。



坂坦道「話」

第7～9展示室

第67回

示現会展巡回金沢展

11月27日(木)～12月1日(月) 会期中無休

◆連絡先／森脇位泰

電話 〇七六一―二二―一五三七

◆入場料／一般五〇〇円(二〇名以上の団体四〇〇円)

六十五歳以上 四〇〇円、大高生 三〇〇円

※障害者手帳をお持ちの方(付添者含む)、

中学生以下 無料

示現会は堅実中正、清新な具象絵画を目指して、昭和二十二年石川寅二を中心に創立以来、(故)大内田茂士、(故)榎原健三の両芸術院会員を輩出しています。一般社団法人示現会石川県支部は、平成二十一年に設立され、多くの方々のご理解と支援のもとに、翌二十二年より巡回金沢展を開催しています。

今回の金沢展では、本年四月に東京六本木の国立新美術館で展示された一〇二七点の中から、本部基本作品六〇点、石川県出品者作品三十八点、合計九十八点を展示します。

◆連絡先／一陽会石川支部副支部長 竹田明男

野々市市長池六十七の六
電話 〇七六一―二四八―五八九八

◆入場料／一般五〇〇円(友の会・団体三〇〇円)

大学生以下無料

昭和三十年七月に鈴木信太郎・野間仁根・高岡徳太郎らを中心として、一陽会は「清新にして深奥なるものの創造に勤勉し、新時代の美術を推薦せん」「尖锐なる未完成こそ推薦し、前人未踏の新分野の確立に努力するものである」をスローガンに掲げ組織され、本年で創立六十年を迎えました。多彩な作品群を擁し、抽象と具象の作品が競合する展覧会です。今秋、国立新美術館で開催された創立六十周年記念一陽展の出品作品より選抜された基本作品と石川支部地元作品の油彩画・アクリル画・版画・彫刻の八十七点を展覧します。ベテラン作家の秀作から尖锐な若手作家の力作をご鑑賞ください。

第7～9展示室

創立60周年記念

一陽展金沢展

12月4日(木)～7日(日) 会期中無休

第5展示室

館蔵優品選 一工芸一

11月27日(木)～12月23日(火・祝)
会期中無休

近現代工芸の展示室では、石川県立美術館の所蔵品から、選りすぐった優品を展示します。今回は展示作品の中から、北原千鹿「銀飾壺」をご紹介します。

高さ十四センチメートルほどの小さな銀製の壺。摘み付の蓋を頂いた首は素直に伸び、口に近い部分から肩の辺りに取手が付きます。胴体は張りが抑えられ、すんなりとして、やや広めの底が、地面にピタッと落ち着きます。法隆寺宝物のような、古代の水瓶を思わせる造形ながら、首や底の直線的な処理に作者独自の感覚がうかがえます。表面には鍍金と彫金によって文様が表され、鍍金と漆彩色が施されています。打ち出された草木の文様や線刻は、古拙ともいえる素材さを持ち、朱漆の鮮やかな色彩とあ

いまって、いきいきとした存在感を放ちます。

作者の北原千鹿(一八八七―一九五一)は、香川県高松市出身で、東京美術学校(現・東京藝術大学)の金工科で学びました。当時の工芸界の保守的な風潮に反発して、无型(むけい)(一九二六年結成)や工人社(一九二七年結成)といった革新的な同人において、中心として活動。戦後は日展の審査員や参事をつとめ、日本金工界を牽引し続けました。

本作品は、たとえば工人社時代にはしばしばみられるような機械主義的な作風とは異なり、草木をモチーフとした有機的な文様と、古典に取材したデザインが特徴です。こうした作風は一九三一年頃からとされており、本作品もそれ以降の制作と考えられるでしょう。



北原千鹿「銀飾壺」昭和初期

第8・9展示室 第24回 石川独立DO展

12月14日(日)～17日(水) 会期中無休

◆出品予定作家
大部雅子・金子顕司・京岡英樹・桑野幾子・田井淳・西又浩二・堀一浩・三浦賢治・乙部久子・桜井節子

◆入場無料

◆連絡先／堀一浩
電話 ○九〇―四三二六―五八四九

石川独立は、昭和五十四年に県内在住の独立展出品者を中心にDO展として発足しました。日本のフォービズム(野獣派)の流れを汲む独立展は、自由で個性強烈な作家を輩出している事で注目を集めています。

第8・9展示室 第38回 公募日創展 & 新院展選抜金沢展

12月10日(水)～12日(金) 会期中無休

◆主な出品者
北出朝之・保科誠・柴田輝枝・村中博文・南好乃・中村勝代・大窪昭子・牛丸美代子・北川真理子・松尾功一朗・伊藤夏子

◆入場無料

◆連絡先／丹羽俊夫
金沢市窪一―二三三
電話 ○七六一―二四四―五九一六

丹羽俊夫会長が石川県を基盤として創立し、今年三八回展を迎えます。

理事長三宅厚史、副理事長今村文男をはじめ、県内外からの出品を中心に日本画一〇〇点余を展覧。また、新院展選抜金沢展に出品された秀作も多数展示致します。

◆連絡先／志賀町生涯学習センター
羽咋郡志賀町高浜町カの一番地一
電話 ○七六七―三三二―二九七〇

◆入場無料

志賀町を描く美術展は、志賀町の四季を通じて彩りを添える風景・豊かな自然の恩恵を受けて育まれてきた伝統文化や慣習などをキャンバスに描いていただくことにより、本町をより多くの皆様にPRする目的で開催しております。例年、招待作品から一般作品まで約二〇〇点の洋画・日本画・水墨画・水彩画・版画などの作品を富来展と金沢展の二会場で開催しております。

◆連絡先／一般社団法人 二科会写真部石川支部
支部長 工俊治
能美市大成町へ七八―一
電話 ○七六一―五五―〇九七二

一般社団法人二科会写真部石川支部は、石川芸術の環境として、地域文化の創造による中央展への会派として創立しました。以来、銀塩写真による生活実態の様子を写真表現での芸術から、時代の変化に伴い、新しいデジタル写真文化の創造と育成を目的としています。支部員全員による日頃の写真研究の成果として、本年二〇一四年一般社団法人二科会写真部石川支部展を開催し、幅広いジャンルの中での最も感動した一瞬のアートの一コマずつの成果を、県立美術館第7展示室にて発表いたします。是非ご高覧頂き、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

第7～9展示室 第26回 志賀町を描く美術展 金沢展

12月20日(土)～23日(火・祝) 会期中無休

第7展示室 二科会写真部 石川支部展

12月10日(水)～14日(日) 会期中無休

高山右近とその時代



大阪府文化財
「ザビエル伝(部分)」
南蛮文化館蔵

高山右近は今年のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」にしばしば登場し、「義の人」と評されたその人物像が、時代考証に基づいて感銘深く描かれていました。本展は、戦国時代から天下統一までの激動の時代を生き抜いた右近の生涯と人物像を、貴重な史料や作品によって重層的に捉え直すことを趣旨に開催されるものです。今回は出品総点数約一〇〇点のうち、主要な展示作品を紹介します。

| 指定 | 作品名 | 所蔵者 |
|---------------|------------------|--------------|
| ◆高山右近関係 | 伝・高山右近所用テヨッキ | カトリック大阪大司教区 |
| | 伝・高山右近所用兜 | 南蛮文化館 |
| | 高山右近書状 | 上智大学キリシタン文庫 |
| | 高山右近書状 | 当館 |
| 高山右近書状 | 永青文庫 | |
| 茶約銘「御坊へ」高山右近作 | 滴翠美術館 | |
| ◆茶道美術 | 千利休書状 | 大阪城天守閣 |
| | 唐物肩衝茶入 利休小肩衝 | 金沢市立中村記念美術館 |
| | 黒楽茶碗 銘シコロヒキ 長次郎作 | 今日庵 |
| 堺市文 | 木地釣瓶水指 利休所持 | 今日庵 |
| ◆歴史資料 | 『山上云』写本 | 堺市博物館 |
| | イエズス会日本通信(エヴォラ版) | 京都外国語大学付属図書館 |
| 石川県文 | 瑞龍公御年表 | 金沢市立玉川図書館 |
| 石川県文 | 前田利家画像 | 個人蔵 |
| ◆南蛮美術 | 南蛮屏風 | 南蛮文化館 |
| | 南蛮屏風 | 大阪城天守閣 |
| 重文 | 救世主像 | 東京大学総合図書館 |
| 重文 | 草花時絵聖母子画像入聖籠 | 南蛮文化館 |
| 大阪府文 | 『ザビエル伝』 | 南蛮文化館 |
| ◆北陸伝来キリシタン遺物 | 悲しみの聖母画像 | 南蛮文化館 |
| | 聖母子像 | 本行寺 |
| | 聖母子像 | カトリック金沢教会 |
| | キリスト・聖母子念持像 | 金沢聖霊修道院 |

展覧会回顧

工芸王国の実力！

本展は、明春の北陸新幹線開業にちなむイベントとして開催したものです。石川県は従来より、「工芸王国」と称される土地柄ですが、その実力と魅力をこの機会に再認識していただこうと、明治期から現代に至る当県の工芸界を代表する一二〇作家の作品一三八点を展示しました。

今回は展示方法を検討し、何点かの作品をガラスケースから展示室フロアに出して展示し、普段より間近で作品を鑑賞していただくことにしました。なかでも、見どころの多い松田権六の代表作「蓬萊之棚」は、ケースの中では一方向からしかご覧いただけませんが、扉の裏側などにも装飾が施されており、四方から近くに寄って見ていただけたことで、よりそのすぐれた技と美を感じ取っていただけたと思います。

また今回、初公開となった前大峰作「松竹梅図屏風」(二曲一隻、三点一組)は、その迫力に満ちた表現が、晩年の作でありながらも、作者の力量を遺憾なく発揮したものとして注目されました。

芸術の秋、おおむね天候にも恵まれ、会期中は多くの方にご来館いただきました。また、学校の団体鑑賞も何校かあり、多くの若い人たちが受け継がれてきた郷土のすぐれた工芸の存在を知るきっかけになったことと思います。

ご来館いただきました方々、そして本展開催にあたり多大なご協力を賜りましたご所蔵者並びに関係各位に対し、あらためて厚くお礼申し上げます。



法邑利博講演会 加賀友禅ファッションショー 連続ギャラリートーク



ショーを行いました。

十月五日(日)午後、美術館ホールにおいて、加賀友禅作品が当館の所蔵となっている洋画家法邑利博氏の講演会と、歴代ミス加賀友禅をモデルとした加賀友禅ファッション

第3展示室で開催した特集展示「加賀の幻想―法邑利博」は、洋画家であり友禅作家でもある法邑氏の、画家としての歩みをご覧いただくもので、きめ細かな絵肌や反復される文様、友禅の糸目糊の技法を転化したと思われる細い線など、工芸を学んだ作家ならではの作風が展開されていました。「水と油が溶け合うとき」と題した講演会では、機械の設計技師から友禅作家へと転じ、同時に洋画を描き続ける法邑氏の半生が語られました。まさに、水と油、異なる世界が混交して現在の作風があるのだと納得させられるものでした。

その後、二十分程の間において、加賀友禅ファッションショーが始まると、立ち見も出る盛況ぶりで、担当学芸員の苦労が実を結びました。当館初の試みです。石川県無形文化財加賀友禅技術保存会会員の作になる美しい友禅の振り袖を、十名の歴代ミス加賀友禅が着るといこうゴージャスなイベントです。作家の方が制作の思いを語られ、その横でミス加賀友禅が艶やかに微笑み、舞台の上を行きつ戻りつ優雅に歩みます。普段美術館での着物作品は衣桁に飾られ、平面として見ます。つまり現代美術でいえばシェイプド・キャ



ンバスに描かれた平面(絵画)作品として鑑賞するのです。ところが、制作者は実際に人が着た場合を想定して、絵柄や文様は顔のそばに置く場合、袖に置く場合はと様々に思索し、見え方を工夫します。立体となった着物を前に十名の作家の方々は熱く語られ、予定の時間を軽くオーバーしてしまいましたが、満員のお客様は大満足の様子でした。最後は、歴代のミスが客席に降り立ち、拍手喝采を浴びて大団円です。

十月九日(木)に二階コレクション展示、全七室の連続ギャラリートークを午前と午後に行いました。雉香炉の部屋から始まり、前田育徳会尊經閣文庫分館、古美術展示室を経て、油彩・彫刻・工芸・日本画の近現代部門へと、それぞれの担当学芸員が十分ほどの持ち時間で作品解説をして回ります。最初から最後までお聞きいただいた熱心な方々も何人か見え、大変ありがたかったです。次第でした。



十二月の行事予定

| | | | |
|-----------|-----------------------|------------|------|
| ■土曜講座 | 午後1時30分 | 講義室 | 聴講無料 |
| 13日(土) | 近代工芸と茶道具 | 学芸専門員 寺川和子 | |
| 20日(土) | スポーツと美術 | 担当課長 北澤 寛 | |
| ■ビデオ上映会 | 午後1時30分 | 美術館ホール | 入場無料 |
| 7日(日) | 東山魁夷 風景讃歌(55分) | | |
| ■キッズプログラム | 午後1時30分 | 2F展示室 | 参加無料 |
| 14日(日) | 小学生親子鑑賞講座 絵の世界を旅してみよう | | |



「キリスト・聖母子念持像」金沢聖霊修道院蔵



「聖母像」本行寺蔵



「聖ペトロ画像」南蛮文化館蔵



「IHS文字秋草時給書見台」南蛮文化館蔵



大阪府文「イエス会紋章入七宝時給螺鈿聖餅箱」
南蛮文化館蔵



「象嵌十字紋倭型鉢」神戸市立博物館蔵

次回の展覧会

会期:平成27年1月4日(日)~
2月8日(日)

| | | | | |
|------------------|-------|---------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 前田育徳会 尊経閣文庫分館 | | 第2展示室 | | ご利用案内 コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション展示室 無料の日(12月は1日) 今月の開館時間 午前9:30~午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00~午後7:00 年中無休 12月の休館日 24日(水)~31日(水) |
| 新春を寿ぐ | | 新春を寿ぐ 一茶道美術を中心に一 | | |
| 第3展示室 | 第4展示室 | 第5展示室 | 第6展示室 | |
| 墨の美[書] | 新春優品選 | 香りをかざる・ 茶をたのしむ | 新春優品選 | |

Meiカード

ポイントプラスデー

毎週水曜日は
エムザでお買物

Meiカード
通常ポイント

+

3%
ポイント
プラス

広告

MEITETSU
MIZA

めいてつ・エムザ

金沢 むさし TEL(076)260-1111(代)
www.meitetsumza.com
10時~19時30分(地階レストラン街・書籍は21時まで)

石川県立美術館だより
第374号(毎月発行)
2014年12月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/